

2010年9月16日

内閣総理大臣
菅 直人 殿

MDGs サミットに向けたレポートについて

国連ミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限までわずか5年となる2010年は、世界にとって決定的な年となります。これまでのところ、MDGsは短期間で大きな成果を上げている分野もありますが、MDGs達成へのモメンタムの維持と向上は緊急の課題となっています。サミット開催が間近に迫る中、セーブ・ザ・チルドレンはレポート『A Fair Chance at Life～命への公平な機会』を発表し、MDGs、特にMDG4（乳幼児の死亡率削減）の達成と子どもたちの生存の権利の実現のためには、不公平・格差の解消が欠かせないと報告しています。

本レポートは、潘基文国連事務総長より提唱された「女性と子どもの保健のためのグローバル戦略（仮称）」に直接呼応する内容として、毎年900万人もの貧しい国の子どもたちが予防可能な要因で亡くなっている深刻な開発課題に焦点を当て、乳幼児死亡率の削減への取り組みにおいて公平性を担保することの重要性を報告しています。全ての子どもが命への公平な機会を得ることの道義的意義に加え、本レポートではMDG4達成に向けた効果的な戦略として、公平性への取り組みが不可欠であると指摘しています。

セーブ・ザ・チルドレンは本レポート作成にあたり、32カ国における貧困層と富裕層の子どもの死亡率の比較・分析を行いました。その結果、乳幼児死亡率の削減に成功している国々の多くは、最も貧しく脆弱な立場に置かれた子どもに成果が集中しており、反対に、乳幼児死亡率削減の実績が低い、あるいは実績のない国々は、貧困層と富裕層の子どもの死亡率の格差が非常に大きいことが判明しました。

結果は明白で、貧しい子どもを優先することこそが、緊急課題であるMDG4達成にむけた最も確実な方法です。本レポートは開発途上国における乳幼児死亡率削減のための4つの政策課題として、子どもの健康に影響する根本的要因に取り組む**包括的アプローチ**、最低限の医療サービスへの**普遍的アクセス**、乳幼児死亡率を公平に削減するための**公平な公共支出**、市民社会による公平性への要求に応える**透明性と説明責任**を挙げています。

セーブ・ザ・チルドレンは世界各国の首脳に対し、子どもの死亡率削減の取り組みにお

いて公平性を担保するよう呼びかけると共に、MDGs サミットにおいて以下の 3 通りの具体的手段に合意するよう提言しています：

- **MDG4 を地域ごとに実現**—国際社会は、乳幼児死亡率の削減を全ての所得グループ、そして全てのコミュニティで実現できるよう約束し、この目標達成のために必要な政策および予算面の措置を取る必要があります。
- **公平性に関するモニタリング**—国際社会は、乳幼児死亡率の削減が公平な成果を上げているかをモニタリングできる仕組みを作る必要があります。
- **公平性を求める市民行動の促進**—MDGs サミットは、公平性実現に向けた市民社会の声を促進すべきです。国連機関は、市民社会と連携し公平な目標達成に向けた市民の要求を積極的に後押しし、最も貧しく、脆弱な立場に置かれた子どもたちのニーズや優先事項が政策決定に確実に反映されるよう働きかけることが求められます。

MDG4 の進捗状況は、広く社会・経済の成長を測るのに最も適した指標の一つです。世界が MDG4 の達成に程遠い状況であることは、緊急の課題としてより注目されるべきです。間もなく開催される MDGs サミットは、乳幼児死亡率の削減を加速させるために必要なプロセスに各国が合意し、2015 年までに MDG4 を達成できるかどうかの明暗を分ける決定的な機会となります。ぜひ本レポートの提言内容にご留意頂き、劇的な成果を上げるために日本からもリーダーシップを発揮頂きますよう、お願い申し上げます。

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
理事・事務局長 渋谷 弘延